



港区新橋5-15-5
交通ビル4F

国労東日本本部

発行責任者 松井正義

編集責任者 伊藤隆夫

2015年
6月4日
NO. 53

ダイジェスト版

みんなが
待っています。
あなたの力を
国労へ
HP <http://www.e-nru.com>

夏季手当 6月4日 第2回交渉 会社側が考え方を示す

組合

ポイントは、UTラインや北陸新幹線といった大施策の成功に向け、社員が一丸となった結果をどの様に評価するか！連続した事故でも、信頼回復に向けた社員の努力に報いる判断を！

社員が日夜奮闘し、今があることの認識は一致している。しかし反映が一時金にダイレクトに結びつくのには温度差はある。 **会社**

第2回交渉では、会社側から資料に基づく現状認識の説明から再開しました。

＜会社の現時点での考え方＞

- ①決算のポイントは、連結・単体共に3期連続の増収増益、経常利益は過去最高。鉄道運輸収入では定期外の新幹線が増収となった。経常利益については堅調に推移をしている。一方で営業費用が増加している事は、若干心配である。
- ②景気は、「緩やかな回復基調が続いている」ものの、海外景気の下振れや、国内の景気を下押しするリスクは留意する必要がある。
- ③国家公務員の期末手当は世間動向を反映したもので、それと比較しても当社は高い水準で支給している。そこを踏まえて考える必要がある。
- ④夏季手当については、大局的な観点から、業績はもちろん今回のベアを行ったことによる人件費に与える影響、公益産業等を総合的に勘案する。人件費は、新人事賃金制度、2年連続の賃金改善によりベースは大きく上がっている。人件費コストで見た場合は、将来にわたって大きな影響を及ぼすことは、労使双方でしっかり留意する必要がある。
- ⑤電化柱倒壊、新幹線架線切断で世の中の信頼を大きく損なった、会社としてはしっかり足元を固めて、一層の安全確保と輸送品質向上を実現させることで、信頼回復に努めていかなければいけない。

組合 新賃金の回答では、我々の支払指定日を大きく過ぎた。今回はそのような事のないように！

過去の支給状況等をみた場合、
今回はそこを崩す要素はない！ **会社**